

鹿児島県理学療法士リーダー塾

OODAループ（基礎編）

鹿児島県理学療法士連盟
青年局長 岩森 俊



はじめに

OODAループとは、みる (observe) ➡わかる (orient) ➡きめる (decide) ➡うごく (act) の4つのプロセスの英語の略称で、2021年5月に開催される第55回日本理学療法学会inおおいのキーワードの1つにもなっております。不明確で常に変化していく状況の中で現状にあるものから最善の判断を下し、即座に行動を起こすことを目的としているこの工程は、コロナ禍でも非常に重要なスキルだと考えます。

OODAループとは

OODAループとは、先が読めない状況で迅速な意思決定を行うためのフレームワークのことです。

- **O**bserve（みる：観察する）
- **O**rient（わかる：方向づける）
- **D**ecide（きめる：決断する）
- **A**ct（うごく：実行）の頭文字をとったもので

基本的には**Observe**（みる：観察する）から
Act（うごく：実行）へ向かって**Loop**する
フレームワーク

日本人にはOODAループが必要

日本人の習慣、考え方の特徴

- ①他人と同調することに何よりも重きを置く。（同調圧力）
- ②分析や計画を好み石橋を叩いて渡る。（完璧主義）
- ③他人からどのように見られているか気にしてしまう。
（外への過剰な意識）
- ④周囲が動き出すと慌てて追随する。
（先走りたくないが、遅れたくもない）
- ⑤自分の目と頭で物事を捉えようとせず、紋切り型の受け止めで済ませてしまう。（思考停止）
- ⑥決めようとしない、動こうとしない、変わらない
（知的怠惰）

スピードと柔軟性が最優先される時代に向いていない国民性

スピードと柔軟性に優れたOODAループ

OODAループは米空軍大佐のジョン・ボイドが提唱した、相手に先んじて確実に勝利するための基本理論です。当初は、戦闘機パイロットとしての経験に基づいた、まさに一瞬の戦闘に勝つためのものでした。しかし、その後ボイドが諸科学の知見を取り入れ、汎用性を持たせた結果OODAループは、戦略、政治、さらにビジネスやスポーツにまで幅広く活用され「どんな状況下でも的確な判断・実行により確実に目的を達成できる一般理論として認められるようになっていきます。

なぜ速くないといけないのか？

①速く動かなければ選択肢が失われてしまう。

（もう少し速めに動いてたら？一足遅かったなんて経験はありませんか？）

②速く動かないと主導権がとれない。

（速く動けば先手が打てるので自分の土俵で戦うことができる）

③速く動いた分チャンスが増える。

（その結果が望ましいことでもものでなくとも失敗から多く学べる。Fail fast 「速く失敗せよ」）

OODAループ思考が速い6つの理由

①フレームワークだから

やるべきことが明快

②直観で行動するから

不要なプロセスから端折れる

③気づけるから

ピンチやチャンスを見逃さない

④意味づけるから

行動する理由を探す必要がない

⑤効果起点だから

役に立たないことは一切しない

⑥主体的だから

誰かではなく自分の最善策になる

OODAループ思考が速い6つの理由

①フレームワークだから

やるべきことが明快

OODAループはフレームワーク⇔フレームワークということはやるべきことが明快で余計なことはやらないで済みます。思考過程の道筋が決められているので、途中での頭の整理や他人の意見に左右される時間が短縮されます。

今、何をすべきなのか、いつアウトプットすべきかが明快で速くなります。

OODAループ思考が速い6つの理由

②直観で行動するから

不要なプロセスから端折れる

私たちは日常での決定事項は、先走りするタイプ・優柔不断などの多少の差はありますが、たいていのことは即決して行動に移しています。その時私たちの頭の中では「直観」が働いています。しかし、それはただのヒラメキではなく、その裏に冷静な状況分析や無意識の論理的思考があり決定されています。

「直観」≠「直感」

OODAループ思考が速い6つの理由

③気づけるから

ピンチやチャンスを見逃さない

目の前の現実を観察してありのままに認識することがスピーディーかつ臨機応変な行動につながります。展開する状況を自分の目で見ることはもちろん、人から話を聞くなど様々な手段で情報収集し、今何が起きているのかをいち早くつかみます。こうした気づきの技術を「Situation Awareness」と言います。

- ①知覚：何が起きているのか？正常か異常か？
- ②理解：どうして起きているのか？どう理解するか？
- ③予測：このままにするとどうなるのか？何をすべきか？

OODAループ思考が速い6つの理由

④意味づけるから

行動する理由を探す必要がない

意味づけとは、予想外のことや不確実性の高い事象に対して、目で見たものや収集した情報が何を意味するのかを見当づけて理解し自分なりに納得して行動に起こすまでのプロセスです。ここにおいて重要なことは理にかなっていること、一貫性があり道筋立っていることが重要であり、正確性は二の次だということです。（日本人の特性（スライド6参照）：正確性の追求は速さを鈍らせてしまう）

OODAループ思考が速い6つの理由

⑤効果起点だから

役に立たないことは一切しない

目的は何かを明確にし、それに資することだけ考えて行動する→効果が期待できないことはOODAループでは一切しません。無駄な行為や時間を徹底的に省いて、目的に向かって進む。効果があることに優先して集中すれば、速く成果がでます。

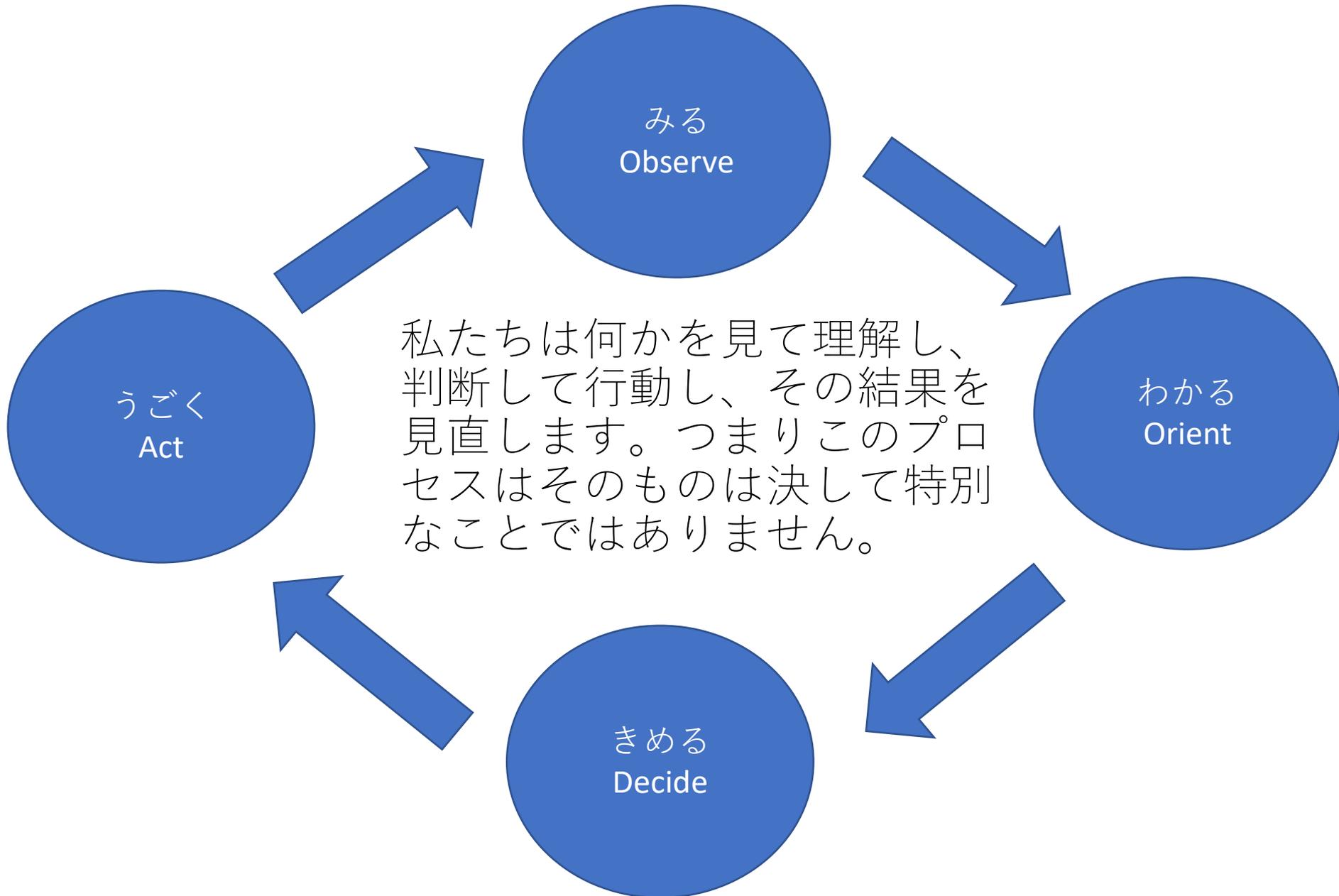
OODAループ思考が速い6つの理由

⑥主体的だから

誰かではなく自分の最善策になる

今までお伝えした項目「直観」「気づき」「意味づけ」「効果起点」どれも主体となるのは自分です。自分の直観、自分の気づき・・・ですので、目標に向かう速度は当然、速くなります。また、最後までやり切る力も強いはずですよ。

OODAループ



みる (Observe)

前スライド、気づきの部分で**Situation Awareness**を紹介しましたが、見ることと気づくことの間には大きな隔たりがあります。気づくためには、意識して「見る」ではなく「観る」。

これが**OODA**ループの始まりです。みる時は現実をありのままに捉えるために意識して「観る」ことに重きが置かれています。現実をあるがままに捉えるためには主観を排し、客観に徹する必要があります。ここが難点でもあると考えます。

主観を排除するために

- ①他の業界と比較する。
 - ・医療（非営利）業界 ビジネス（営利）業界
- ②他の施設と比較する。
 - ・A病院 B病院 C施設・・・
- ③他の職種と比較する。
 - ・看護師 医師 放射線技師・・・
- ④他の分野と比較する。
 - ・医療 介護 ボランティア・・・

自分の慣れ親しんでいる場所が全てではない

主観でズレが生じたケース

「かなり、杖歩行ができるようになりました」

- ・ 車椅子使用 ➡ 杖歩行 5 m
or
- ・ 自宅から 1 km 先のお店まで

わかる (Orient)

見たもの、気づいたことを自分なりに理解して納得することです。OODAループにおいて最も重要なプロセスともいわれています。

私たちは、一人一人異なる考え方を持っている
ので同じ現象でもどう観るか？どう理解する
か？は当然異なります。そしてその違いが判断
と行動の差に表れるというわけです。



知識と経験によって速さ、正確さに差が出てくる

持っているスキルを活かせる (最も重要な「わかる」のプロセスは・・・)

ポジション
(公式の力)

パーソナル
(個人のカ)

リレーション
(関係性のカ)

役職

知識・経験

ネットワーク

経歴

技術・専門性

提携・連携

強制力

人間力

情報

支配

権威

助言を得る

持っているスキルを活かせる (最も重要な「わかる」のプロセスは・・・)

ポジション
(公式の力)

パーソナル
(個人のカ)

リレーション
(関係性のカ)

役職

知識・経験

ネットワーク

経歴

技術・専門性

提携・連携

強制力

人間力

情報

支配

権威

助言を得る

完璧な理解（わかる）などない。

OODAループは速さに重きを置きます。
この「わかる」のプロセスでも、見たものを瞬時に
「自分なりに理解して納得する」ことが重要で、場合
によってはそれが正しい理解ではないかもしれない。



それでも動きましょう。というのがOODAです。
それが時間をかけたら理解できたことなのか？
そもそも理解できないからといって動かないよりはマシ。



まず動いてみて、試してみても、途中で間違っ
て理解していることに気がついたら、修正する
方が速い場合が多い。また、次回の正確性も
上がる。

きめる (Decide)

私たちは毎日、膨大な量の判断を下しています。何時に起きる？何を食べる？どの洋服を着る？これらを判断するにあたり、複数の選択肢から最良の結果が得られそうなものを選んでいく。



そこまで考えていない

その時の気分でなんとなく決めてるのが日常



それは通常で何度か経験しているパターンなので直観で判断することができる。

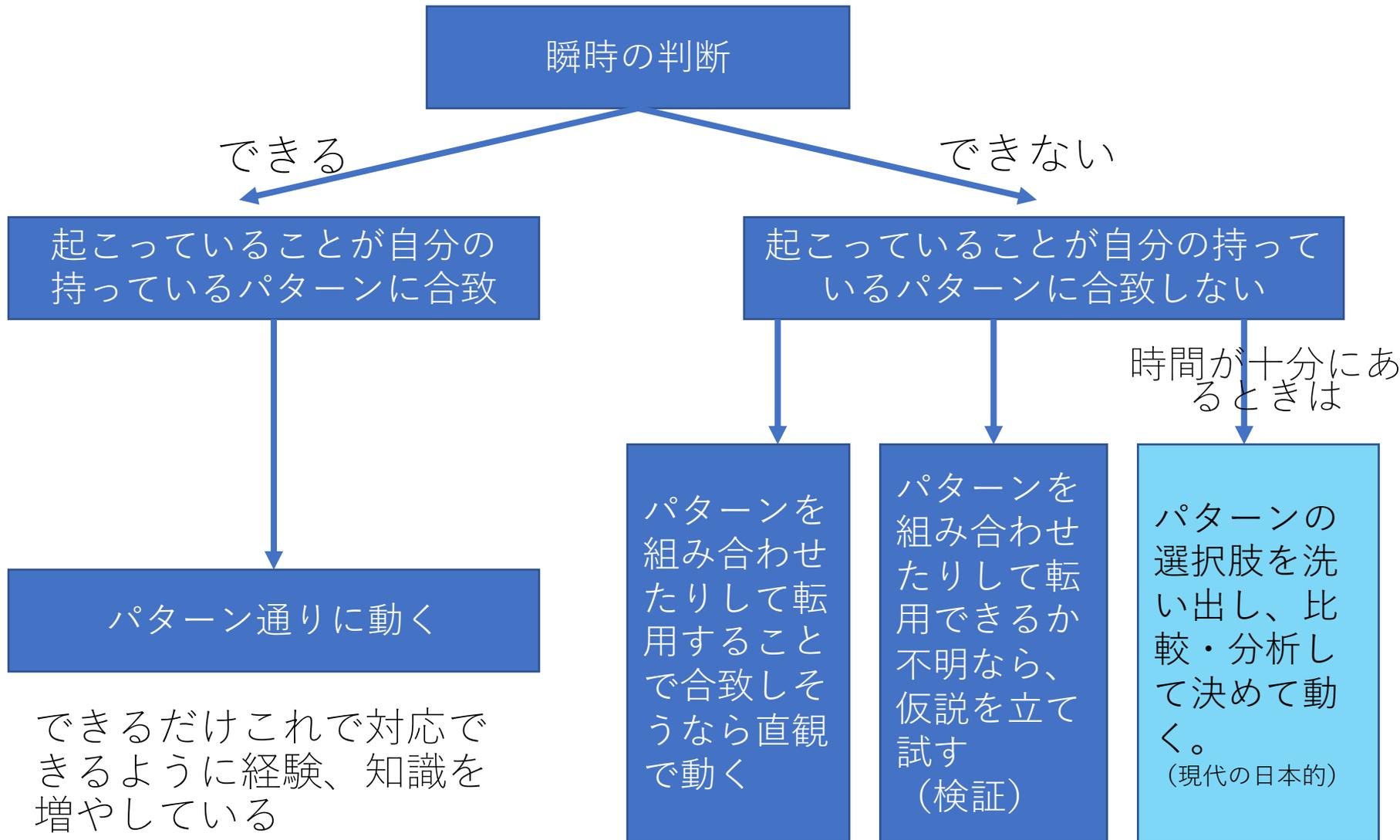


なのでパターンを持つこと（経験）は大切であり、普段から自分の知識を広げる努力をしている。



しかし、私たち医療・介護の世界や現状（コロナ禍）では、経験したことない事象や判断に迷うことが少なからずある。

OODAきめる (D) 方法



うごく (Act)

重要なのは最後までやり抜くこと。単に行動するだけでなく成果が出るように実行することです。前スライドにあったように「動かない」と判断した時以外は、すぐに実行するという意思を徹底することが重要です。

確信が持てない状況で動くことは不安が大きく、成果も得られないかもしれまんせが、失敗も速い方が良くということを理解しておく。

Fail fast 「速く失敗せよ」

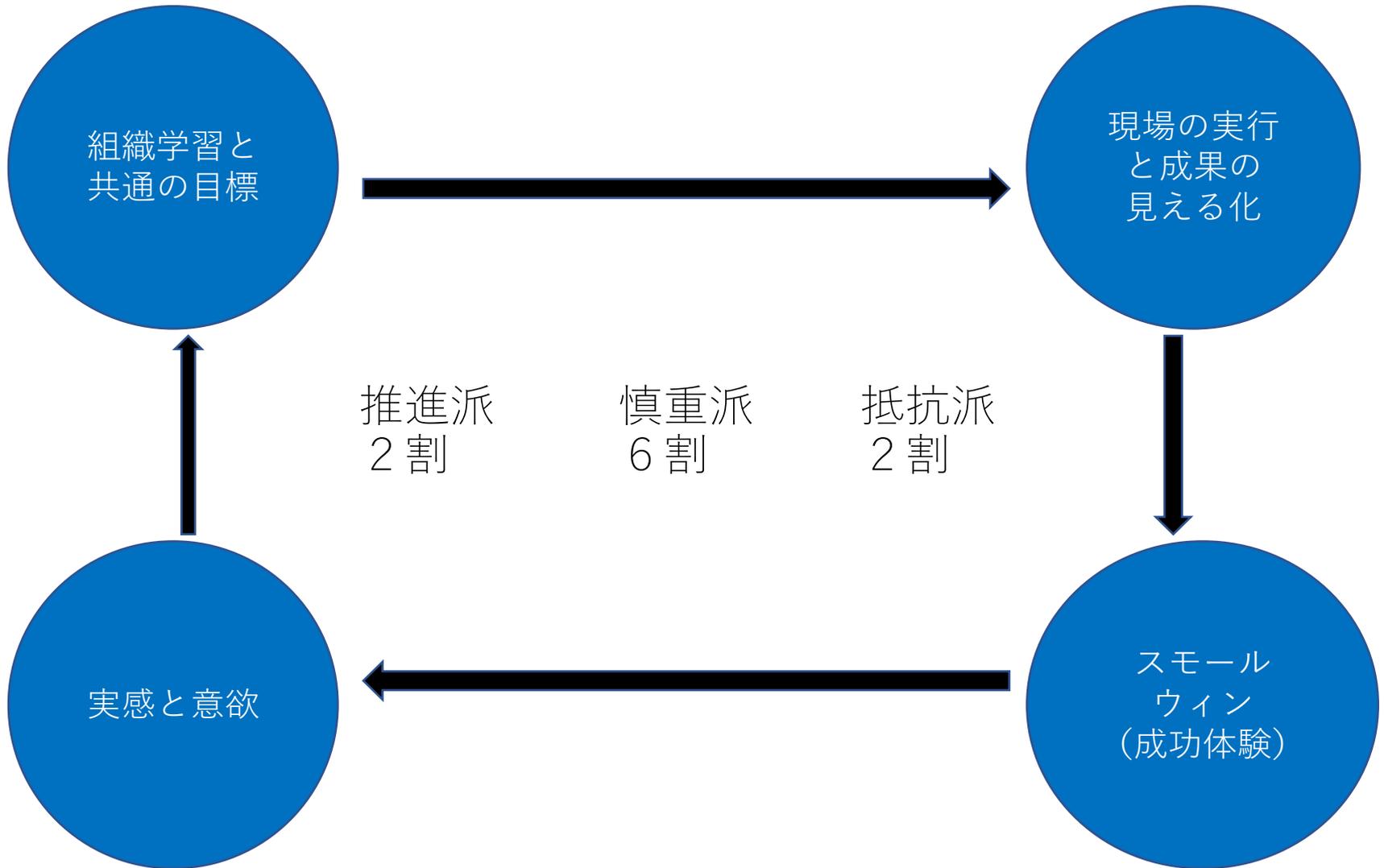
個人で学習し能力を身につけて
動いても限界がある。

組織には現状満足と排除の論理があり個人はその組織の空気に抗うことが難しい。

さらに医療・介護では職種ごとに
排除の論理が働きやすい特徴があります。

しかし、社会情勢の変化に対応するためには動き続けなければなりません。ネガティブな空気をポジティブな空気に変えていくことが非常に重要な作業になります。

うごき続けるために



みなおす (Loop)

うごき終えた後、または「うごかない」と決めた後に、その結果がどうだったかを見直します。明らかな失敗に終わった場合には「わかる」ができていなかった可能性が高いため「みる」に戻ってもう一度OODAループを回します。

OODAループのデメリット（私見）

- 個人の能力や経験で正確性に差が生じる。
- じっくり時間をかけて考え、正解を出すことを求められてきた日本的な考えに反する。リスクとみなされる。
- 組織で動く場合、トップダウンになりがち。
(逆にPDCAは全員が同じ計画を達成するために動くため、比較的、統制しやすい。)

OODAループとPDCAサイクルの違い

まず開発された目的が違う。

PDCAサイクル

工場の生産性を高めるために作られたフレームワーク。決められた工程をいかに低いコストで進め高い生産性を発揮するかという課題に対する改善に最適。つまり業務改善に最適。逆に工程が明確になってないものには効果的でない。

OODAループとPDCAサイクルの違い

まず開発された目的が違う。

OODAループ

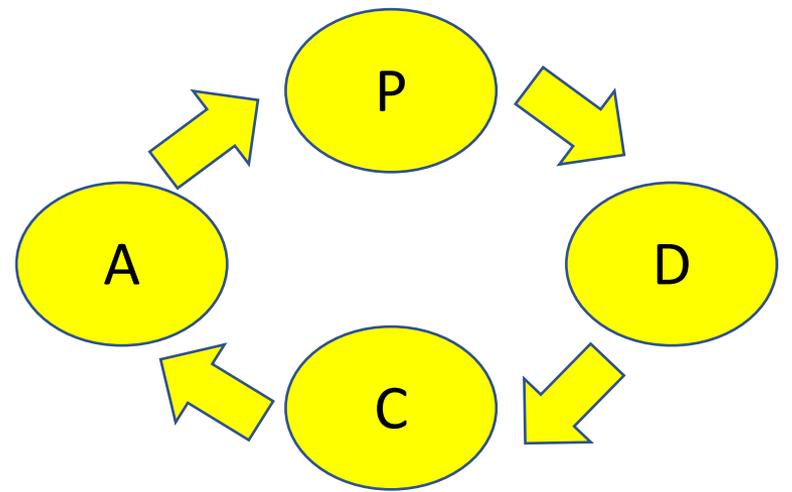
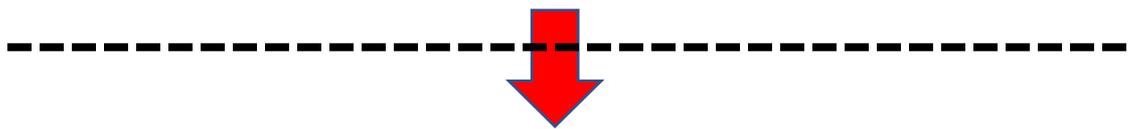
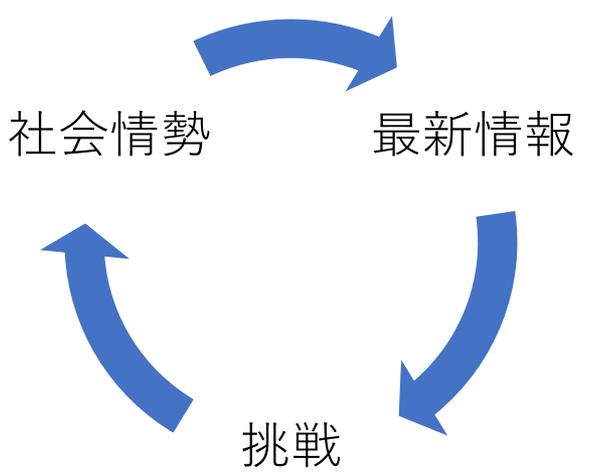
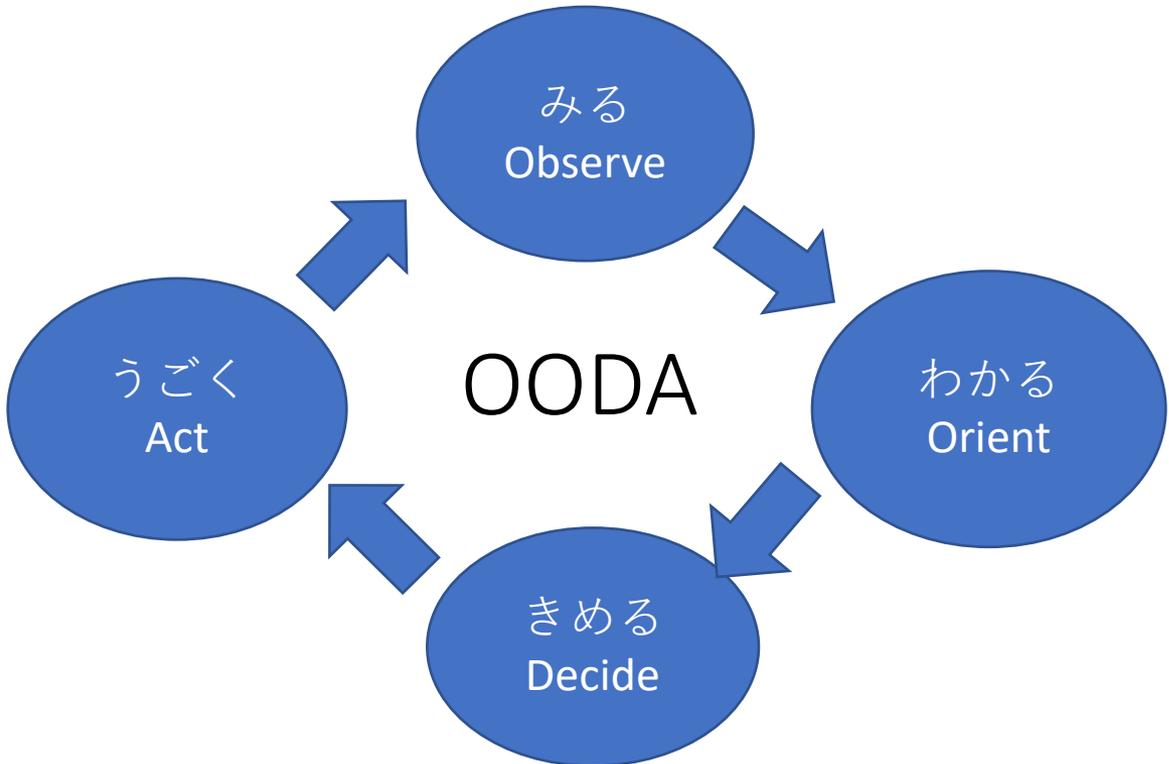
意思決定をするためのフレームワークで不明確で常に変化していく状況の中で、現状にあるものから最善の判断を下し、即座に行動を起こすことが目的。明確な工程のない課題に対して効果的。

OODAループとPDCAサイクルの違い

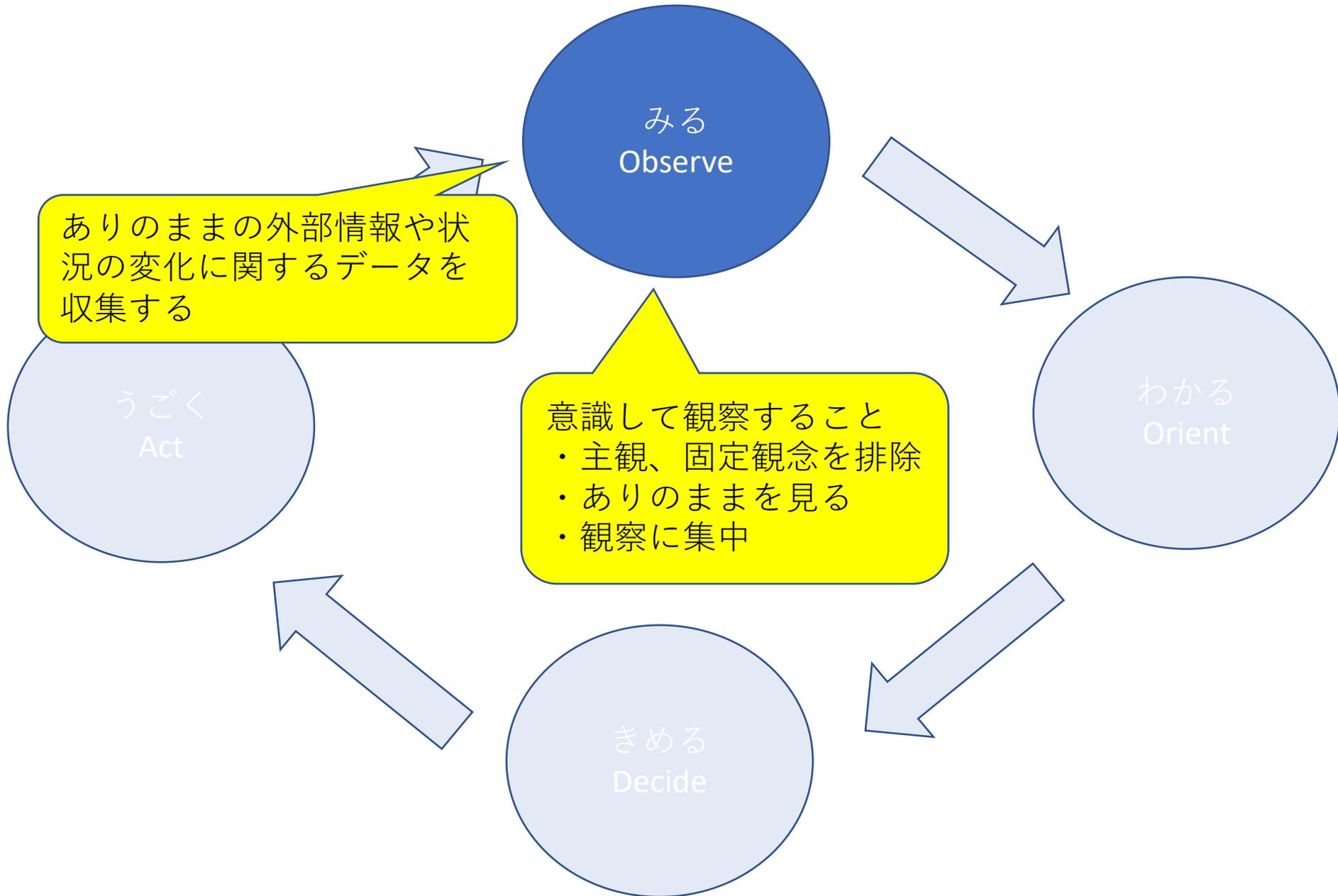
まとめると

PDCAサイクルは業務改善といった「How」を考えるのに効果的であり

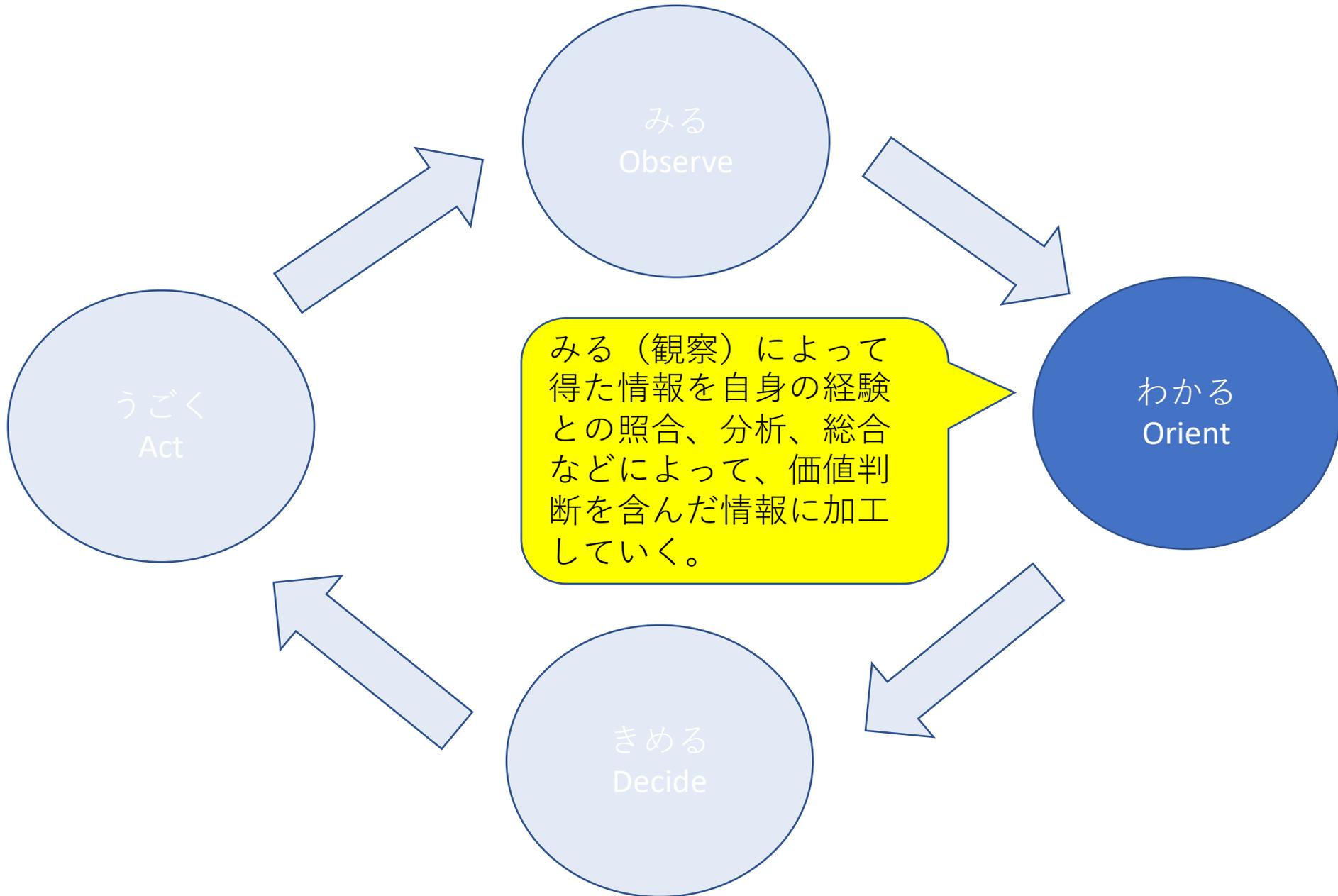
OODAループは起業や事業開発といった「What」を考えるのに効果的なフレームワーク。



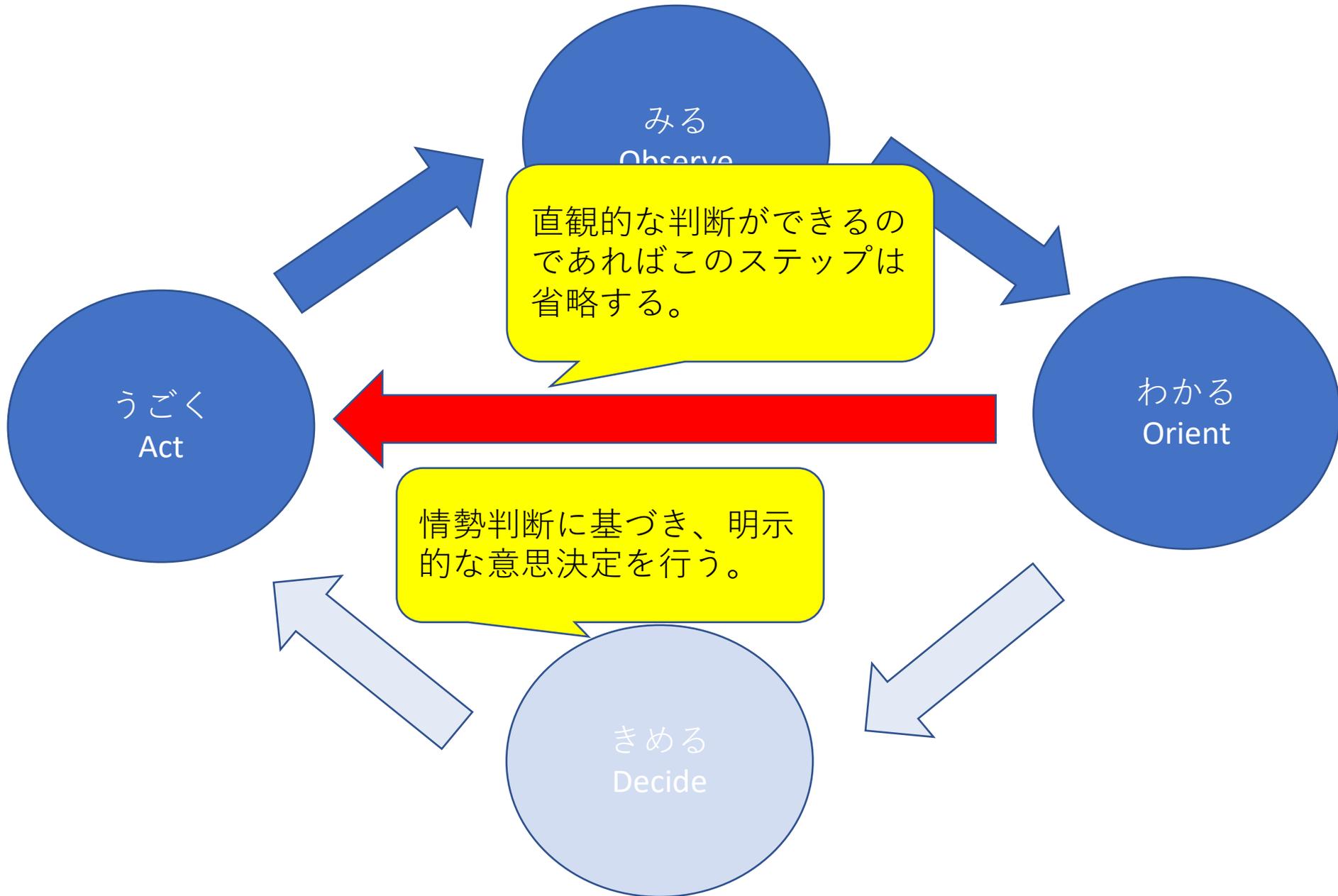
まとめ



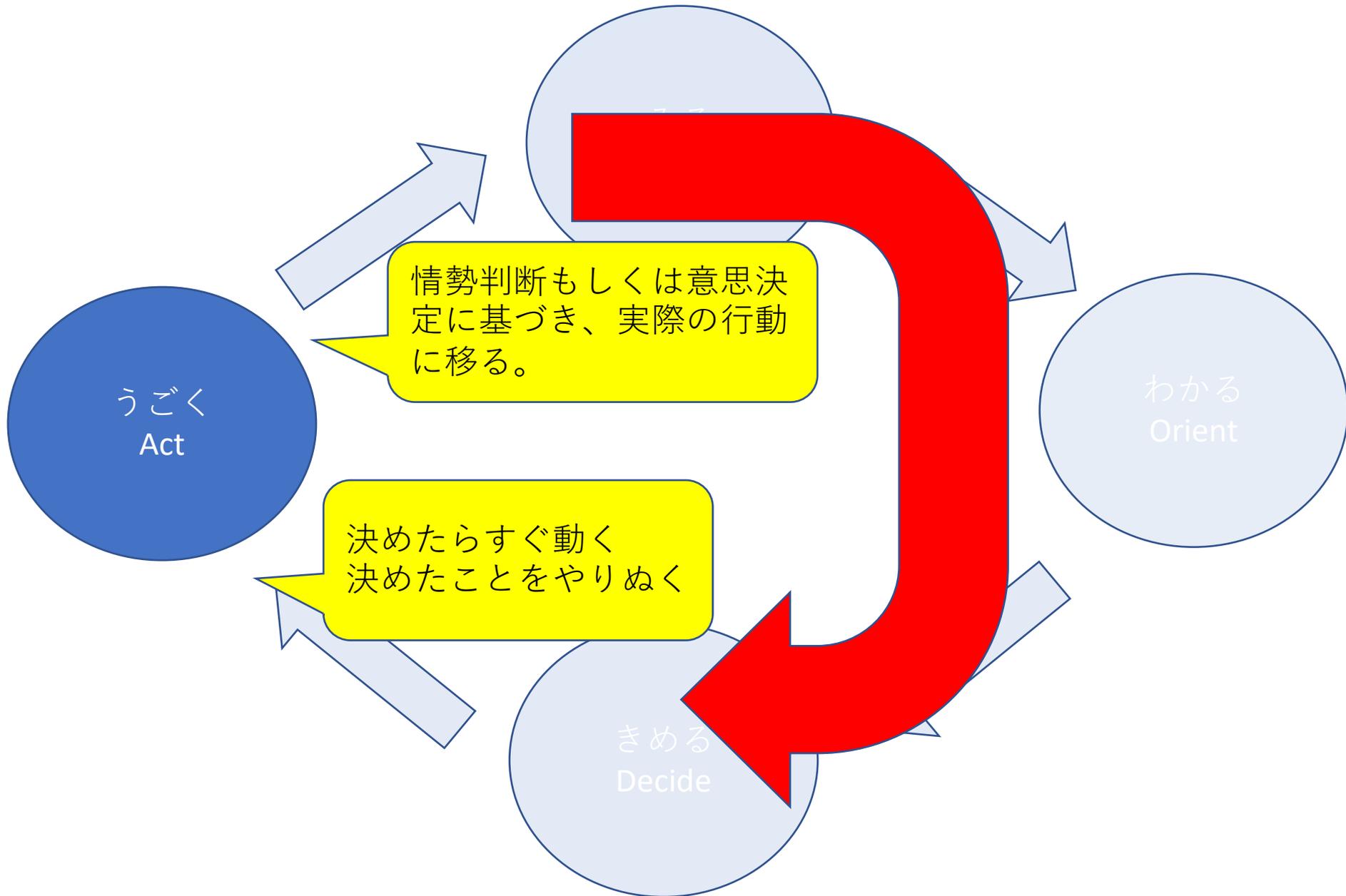
まとめ



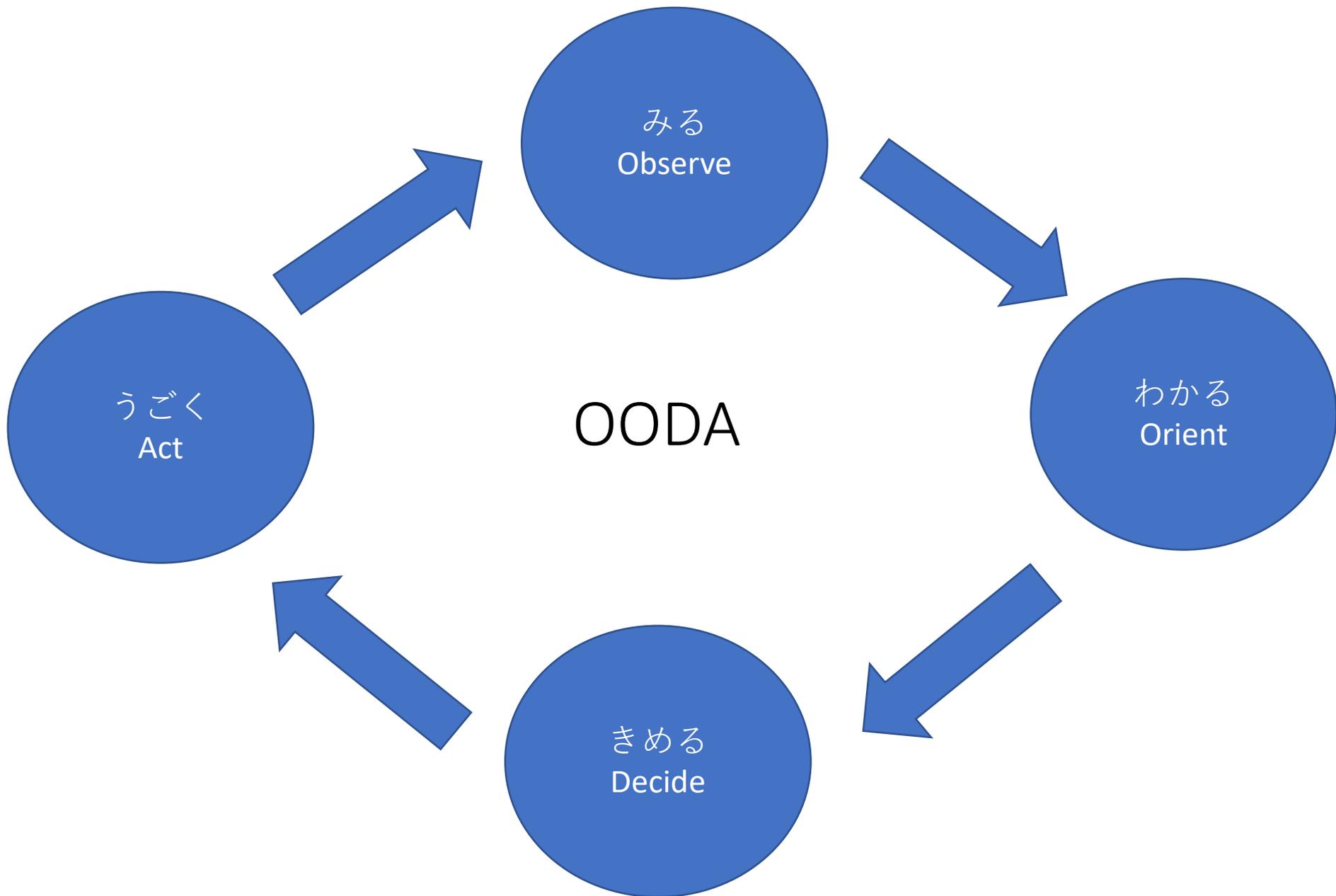
まとめ



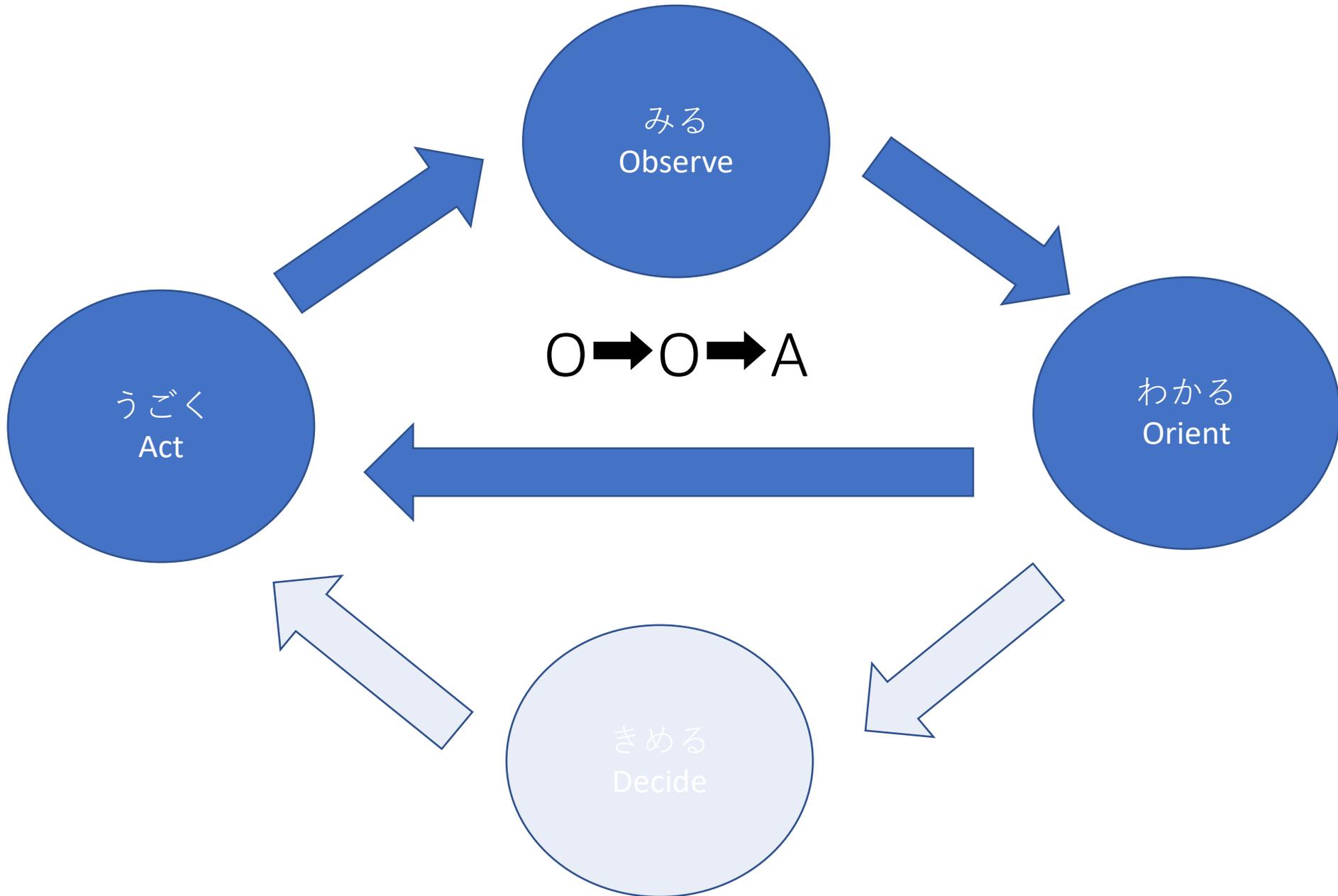
まとめ



まとめ



ショートカット①



瞬時の判断（きめるのショートカット）

①できる

- ・ 日常業務
- ・ ルーティンワーク
- ・ 日常生活動作
- ・ 経験したことある②

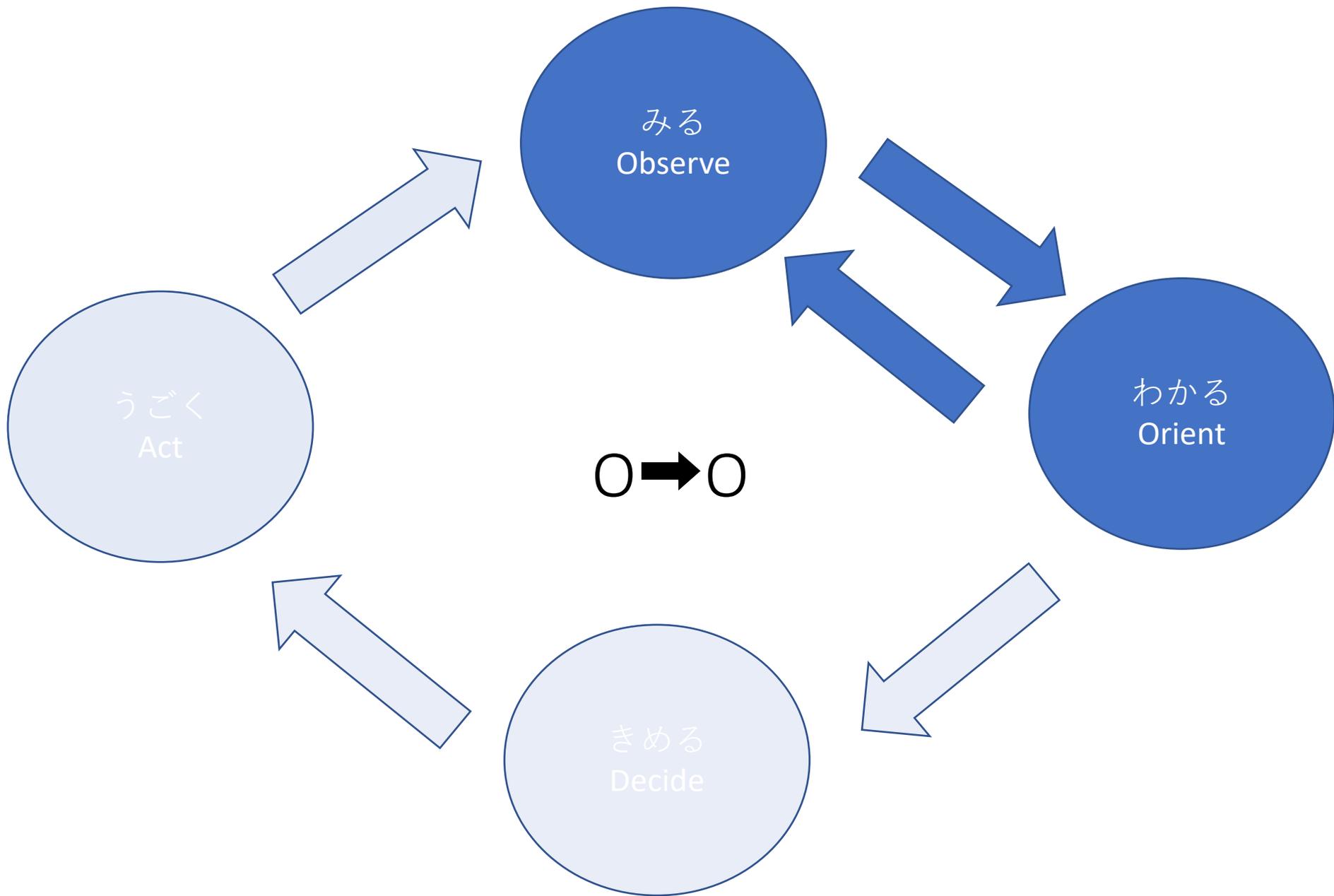
理学療法



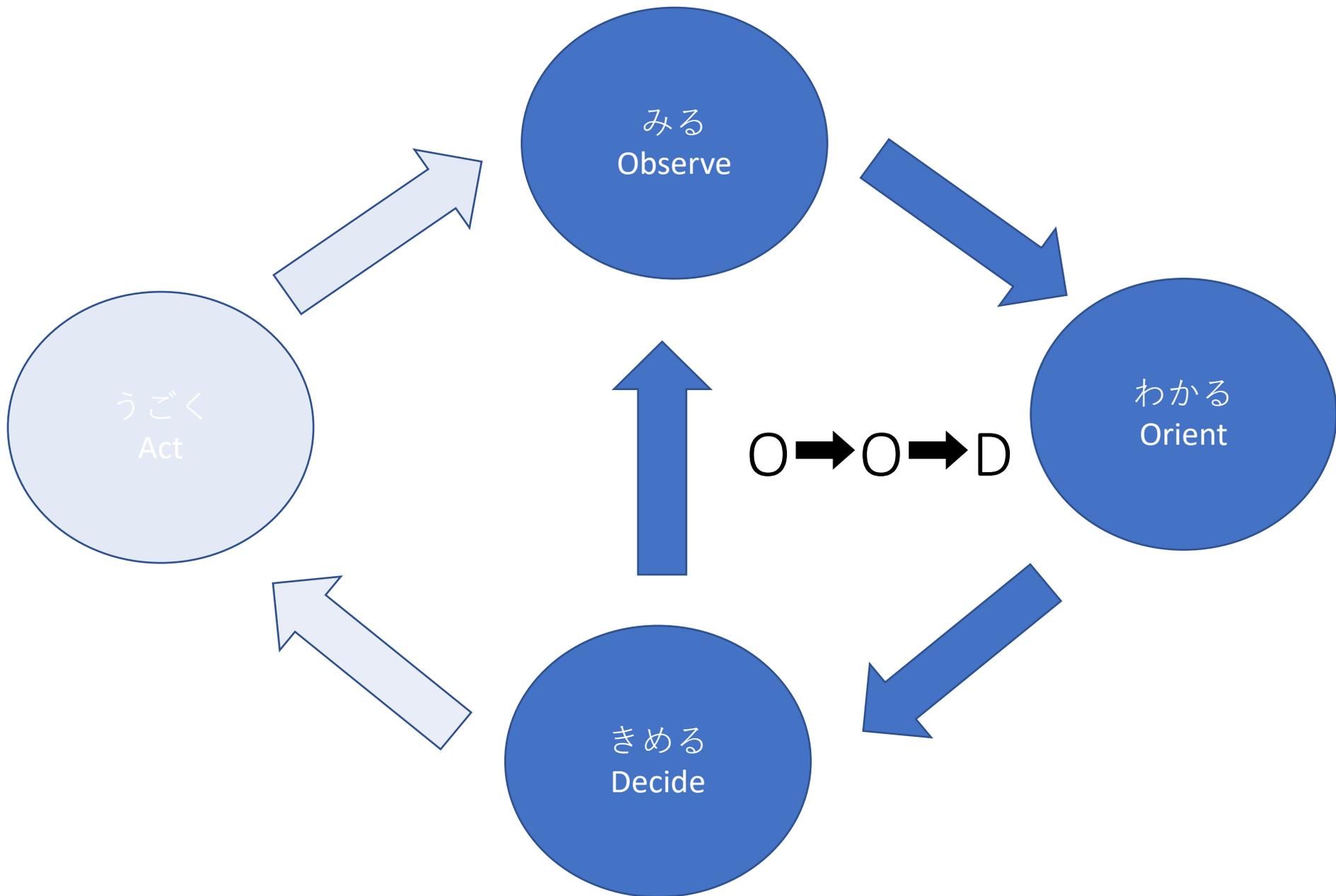
②できない

- ・ 政治活動
- ・ 地域、予防、産業などといった新しい領域への参加
- ・ 挑戦

ショートカット②



ショートカット③



まとめ

- 動かないという判断も結果（成果）である。
- OODAループは予測不可能な環境下で迅速な判断をする際に必須となる思考法。
（私たち連盟の活動もまさにそうです）
- OODAループを迅速に回すことで行動の敏捷性を上げることで、目まぐるしい環境変化に対応しやすくなる。
（現代に必要な思考法）
- 自分の持つ知識や経験を活かしやすい。
- 明確な枠組みが議論のズレをなくす。